

2章 子どものいる有業女性の各ライフステージにおける就業状況

1. はじめに

男女雇用機会均等法成立から25年、育児休業法成立から20年近くがたち、その後も法律が改正され、法律や制度は整備されつつある。しかし、「第13 出生動向基本調査」(夫婦調査)から、第1子出産前後の女性の就業状態を見ると、就業継続者は、1985～1989年には25.0%、2000～2004年には25.2%であり、結婚・出産後も就業継続している割合は大きく変化していない。

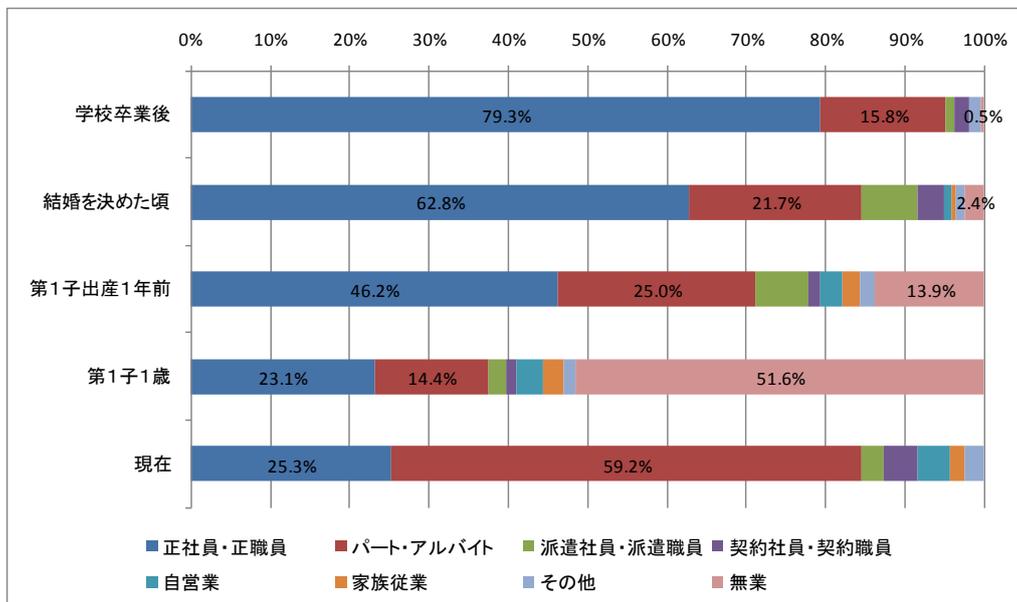
本調査は現在就業している女性に絞って調査しているが、この調査対象者では、結婚・出産後の就業状況はどうだろうか。現在1歳以上12歳以下の子どもがいて就業している女性について、2節で各ライフステージの就業形態を学歴別にみて、3節で、各ライフステージにおける退社時間をみる。

2. 本人と配偶者の就業形態

まず、本人の各ライフステージにおける就業形態を学歴別にみる。

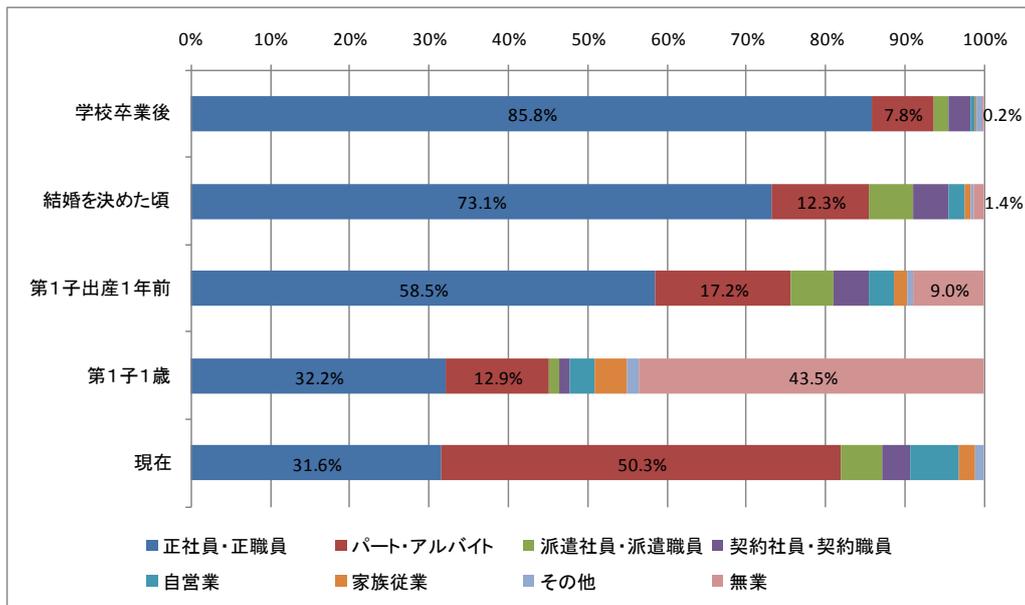
高卒では、正社員の割合は、学校卒業後79.3%、結婚を決めた頃62.8%、第1子出産前46.2%、第1子1歳23.1%、現在25.3%である(図表2-1)。出産前は9割近い者が就業しているが、出産後には約半数が無職である。

図表 2-1 高卒(368名) 各ライフステージにおける本人の就業形態
(分析対象：現在1歳以上の子どもがいる者)



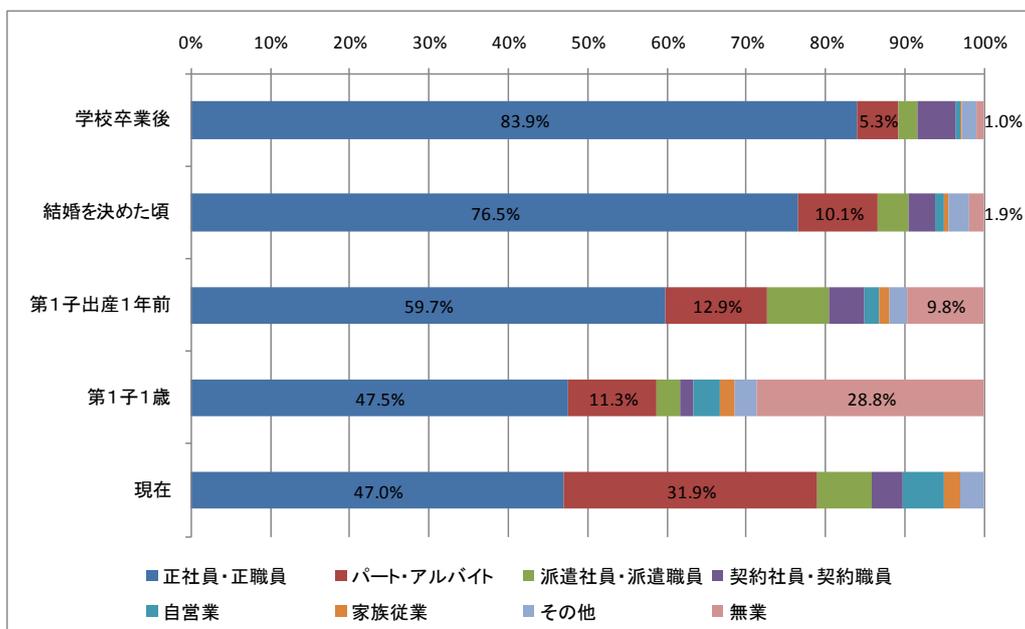
短大卒では、正社員の割合は、学校卒業後85.8%、結婚を決めた頃73.1%、第1子出産前58.5%、第1子1歳32.2%、現在31.6%である(図表2-2)。出産前は9割以上の者が就業しているが、出産後には43.5%が無職である。

図表 2-2 短大卒(513名) 各ライフステージにおける本人の就業形態
(分析対象：現在1歳以上の子どもがいる者)



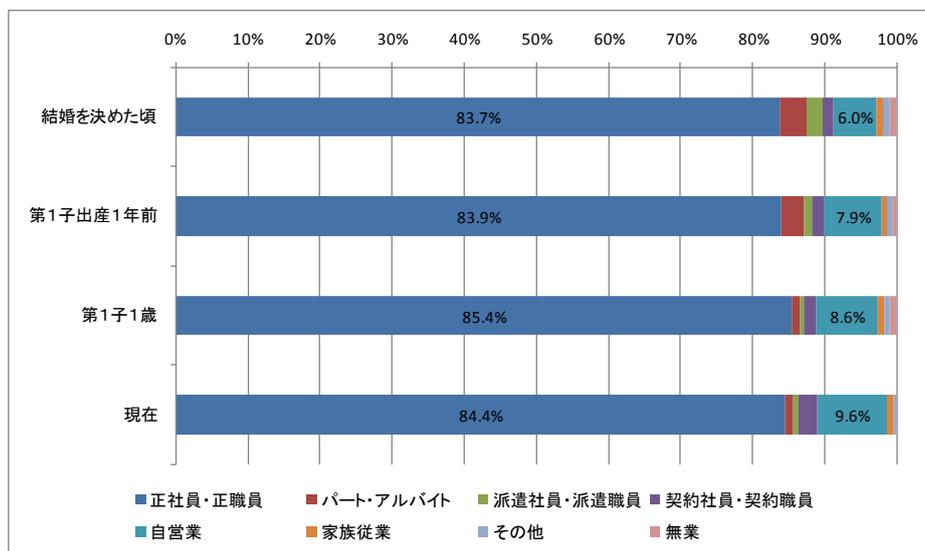
大卒では、正社員の割合は、学校卒業後 83.9%、結婚を決めた頃 76.5%、第1子出産前 59.7%、第1子1歳 47.5%、現在 47.0%である(図表 2-3)。出産前は9割以上の者が就業しているが、出産後には28.8%が無職である。学歴が高いほうが、各ライフステージにおいて正社員である割合が高く、出産で一旦退職する者の割合が低くなっている。

図表 2-3 大卒(417名) 各ライフステージにおける本人の就業形態
(分析対象：現在1歳以上の子どもがいる者)



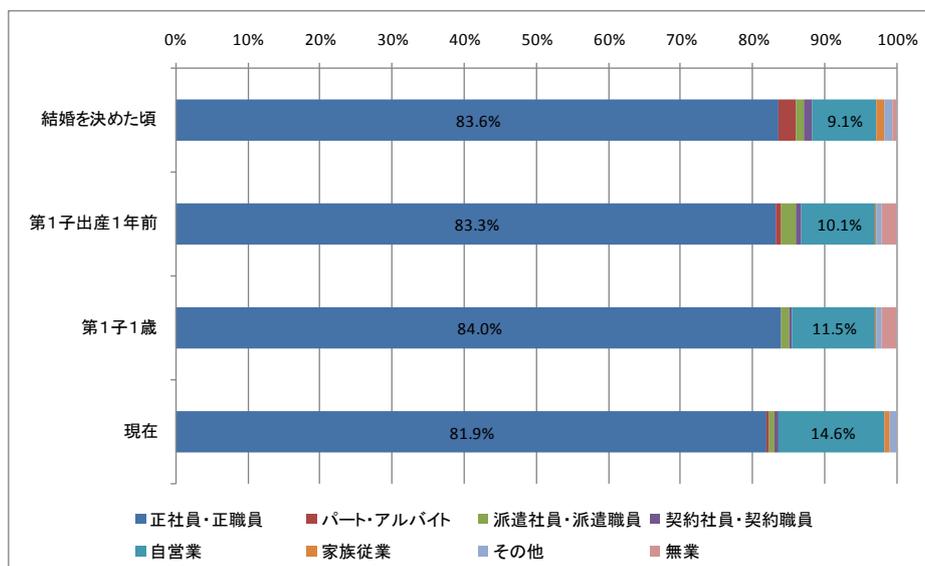
次に、各ライフステージにおける配偶者の就業形態を学歴別にみる。高卒では、正社員の割合は、結婚を決めた頃 83.7%、第1子出産前 83.9%、第1子1歳 85.4%、現在 84.4%であり、ライフステージによる違いはあまりない(図表 2-4)。現在になるにつれて、パート・アルバイトなど非正社員の割合が減り、自営業の割合がやや高まっている。

図表 2-4 高卒(417名) 各ライフステージにおける配偶者の就業形態
(分析対象：現在1歳以上の子どもがいる者)



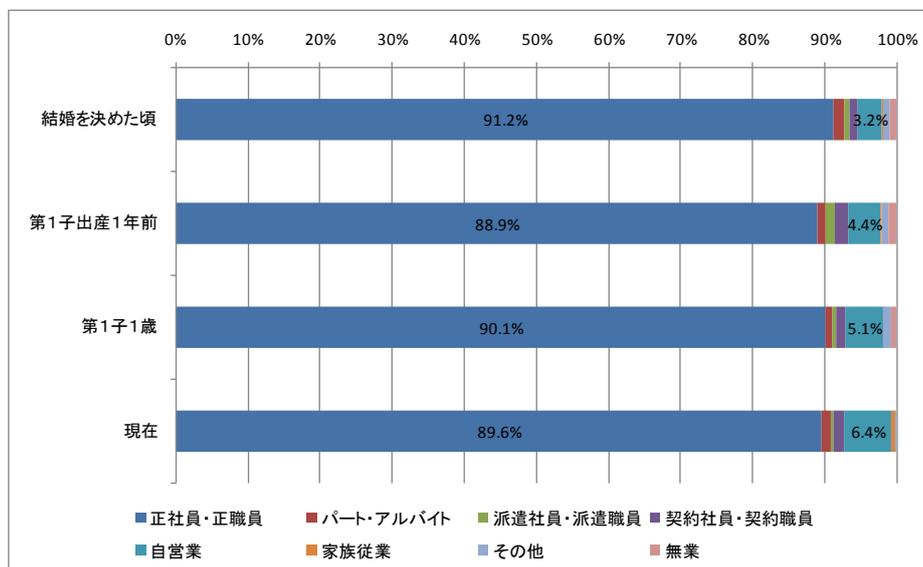
短大卒では、正社員の割合は、結婚を決めた頃 83.6%、第1子出産前 83.3%、第1子1歳 84.0%、現在 81.9%であり、高卒と同様ライフステージによる違いはあまりない(図表 2-5)。また、高卒と同様に、現在になるにつれて、パート・アルバイトなど非正社員の割合が減り、自営業の割合がやや高まっている。

図表 2-5 短大卒(287名) 各ライフステージにおける配偶者の就業形態
(分析対象：現在1歳以上の子どもがいる者)



大卒では結婚を決めた頃 91.2%、第1子出産前 88.9%、第1子1歳 90.1%、現在 89.6%である（図表 2-6）。高卒、短大卒と比較すると、どのライフステージにおいても正社員の割合が高くなっている。

図表 2-6 大卒 (594 名) 各ライフステージにおける配偶者の就業形態
(分析対象：現在1歳以上の子どもがいる者)



さらに、各ライフステージにおける本人と配偶者の就業形態の組み合わせをみる。

結婚を決めた頃、正社員同士の夫妻が 65.2%、夫が正社員で妻が非正社員である夫妻が 18.2%、非正社員同士の夫妻が 2.8%である（図表 2-7）。

図表 2-7 結婚を決めた頃 本人と配偶者の就業形態
(分析対象：現在1歳以上の子どもがいる者 N=1,298)

		配偶者の就業形態				合計
		正社員・正職員	非正社員・非正職員	自営業他	無業	
本人の就業形態	正社員・正職員	65.2%	1.8%	3.7%	0.5%	71.3%
	非正社員・非正職員	18.2%	2.8%	2.3%	0.2%	23.5%
	自営業他	2.2%	0.2%	1.0%	0.0%	3.4%
	無業	1.6%	0.1%	0.0%	0.2%	1.8%
	合計	87.1%	4.9%	7.0%	0.9%	100.0%

第1子出産1年前、正社員同士の夫妻が 49.8%、夫が正社員で妻が非正社員である夫妻が 24.0%、夫が正社員で妻が無業である夫妻が 9.3%、非正社員同士の夫妻が 2.4%である（図表 2-8）。

図表 2-8 第 1 子出産 1 年前 本人と配偶者の就業形態
 (分析対象：現在 1 歳以上の子どもがいる者 N=1, 298)

		配偶者の就業形態				
		正社員・正職員	非正社員・非正職員	自営業他	無業	合計
本人の就業形態	正社員・正職員	49.8%	1.7%	2.9%	0.9%	55.4%
	非正社員・非正職員	24.0%	2.4%	1.7%	0.0%	28.1%
	自営業他	2.9%	0.1%	2.9%	0.0%	5.9%
	無業	9.3%	0.5%	0.5%	0.3%	10.6%
	合計	86.1%	4.7%	8.0%	1.2%	100.0%

第 1 子 1 歳の時、正社員同士の夫妻が 31.4%、夫が正社員で妻が非正社員である夫妻が 14.4%、夫が正社員で妻が無業である夫妻が 37.4%、非正社員同士の夫妻が 0.6%である(図表 2-9)。結婚を決めた頃、第 1 子出産 1 年前と比較すると、正社員同士の夫妻、非正社員同士の夫妻の割合が低く、夫が正社員で妻が無業である夫妻の割合が高い。

図表 2-9 第 1 子 1 歳 本人と配偶者の就業形態
 (分析対象：現在 1 歳以上の子どもがいる者 N=1, 298)

		配偶者の就業形態				
		正社員・正職員	非正社員・非正職員	自営業他	無業	合計
本人の就業形態	正社員・正職員	31.4%	0.8%	1.8%	0.5%	34.5%
	非正社員・非正職員	14.4%	0.6%	1.2%	0.1%	16.3%
	自営業他	4.1%	0.2%	3.8%	0.0%	8.1%
	無業	37.4%	1.1%	2.1%	0.5%	41.1%
	合計	87.2%	2.7%	8.9%	1.2%	100.0%

現在、正社員同士の夫妻が 31.0%、夫が正社員で妻が非正社員である夫妻が 50.7%、非正社員同士の夫妻が 1.4%である(図表 2-10)。

図表 2-10 現在 本人と配偶者の就業形態
 (分析対象：現在 1 歳以上の子どもがいる者 N=1, 298)

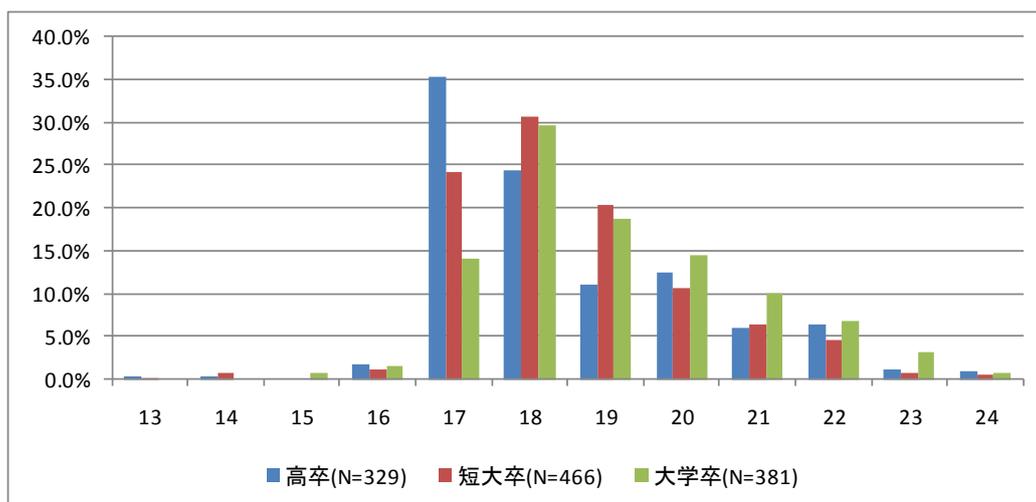
		配偶者の就業形態			
		正社員・正職員	非正社員・非正職員	自営業他	合計
本人の就業形態	正社員・正職員	31.0%	1.5%	2.2%	34.7%
	非正社員・非正職員	50.7%	1.4%	3.8%	55.9%
	自営業他	4.5%	0.4%	4.5%	9.4%
	合計	86.2%	3.3%	10.5%	100.0%

3. 本人と配偶者の退社時間

本人の各ライフステージにおける退職時間を学歴別にみる。

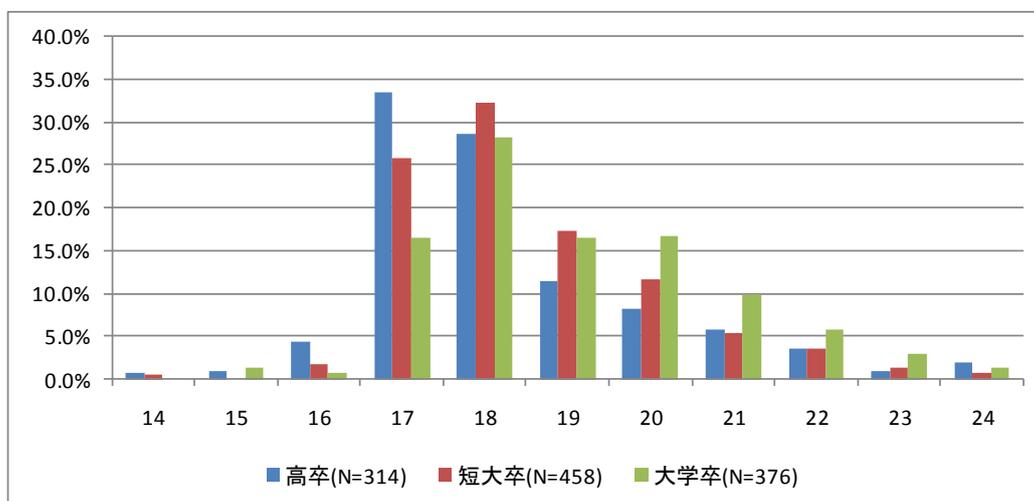
まず、学校卒業後の本人の退社時間をみたところ、学歴が高いほうが退社時間が遅い傾向にある(図表 2-11)。高卒では 17 時の者が最も多く 35.3%、短大卒と大卒では 18 時が最も多く、それぞれ 30.7%、29.7%である。退社時間が 20 時以降の者が、高卒では 27.1%、短大卒では 22.7%、大学卒では 35.2%もいる。

図表 2-11 学校卒業後 学歴別 本人の退社時間
(分析対象：学校卒業後就業者、現在 1 歳以上の子どもがいる者)



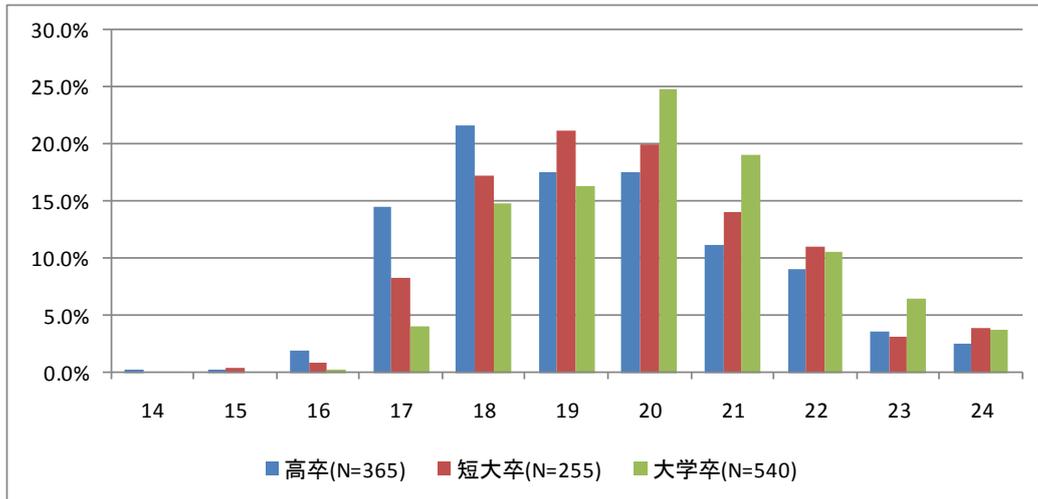
結婚を決めた頃の本人の退社時間をみたところ、学校卒業後と同様に、学歴が高いほうが退社時間が遅い傾向にある(図表 2-12)。高卒では 17 時の者が最も多く 33.4%、短大卒と大卒では 18 時が最も多く、それぞれ 32.3%、28.2%である。退社時間が 20 時以降の者が、高卒では 20.4%、短大卒では 22.5%、大学卒では 36.7%もいる。

図表 2-12 結婚を決めた頃 学歴別 本人の退社時間
(分析対象：結婚をきめた頃就業者、現在 1 歳以上の子どもがいる者)



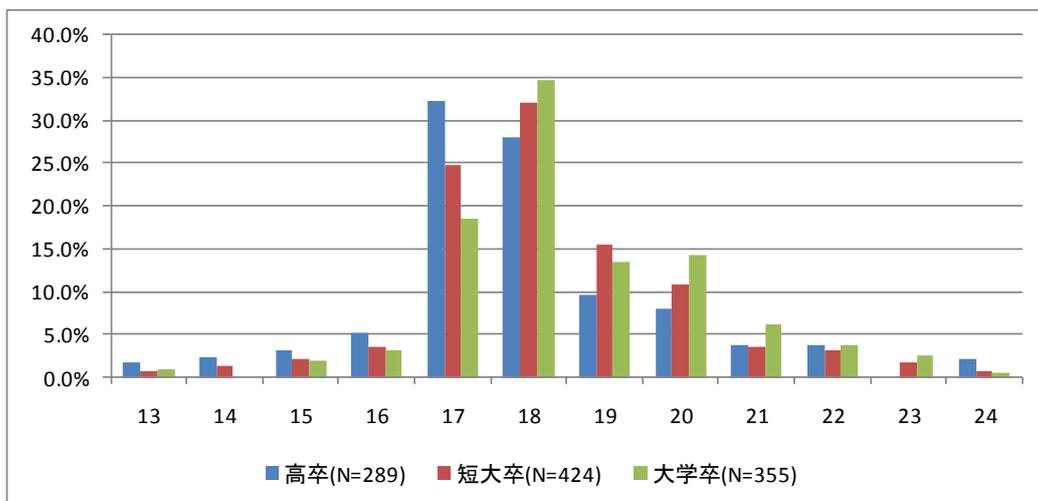
結婚を決めた頃の配偶者の退社時間をみたところ、本人と同様、学歴が高いほうが退社時間が遅い傾向にある(図表 2-13)。高卒では 18 時の者が最も多く 21.6%、短大卒では 19 時の者が最も多く 21.2%、大卒では 20 時が最も多く 24.8%である。退社時間が 20 時以降の者が、高卒では 43.8%、短大卒では 52.2%、大学卒では 64.6%もいる。

図表 2-13 結婚を決めた頃 学歴別 配偶者の退社時間
(分析対象：結婚をきめた頃就業者、現在 1 歳以上の子どもがいる者)



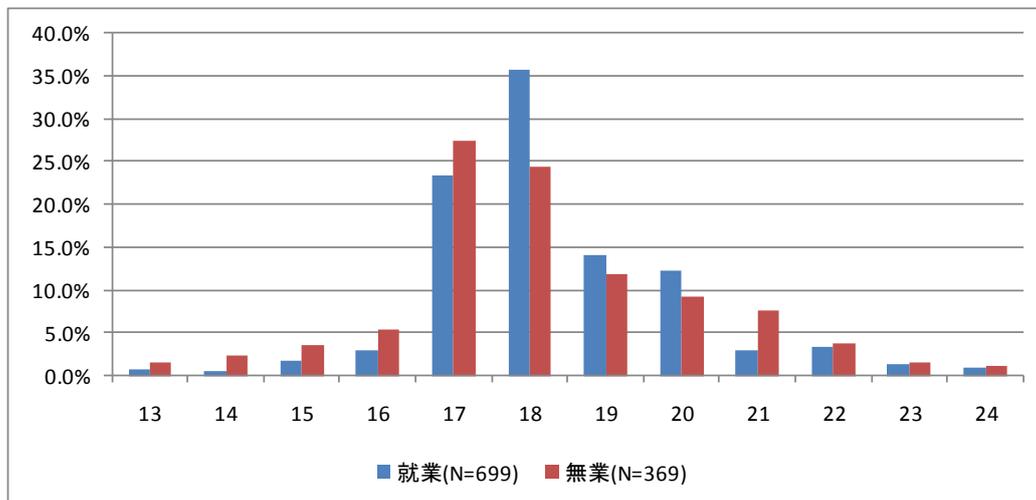
第 1 子出産 1 年前の本人の退社時間をみたところ、学校卒業後、結婚を決めた頃と同様に、学歴が高いほうが退社時間が遅い傾向にある(図表 2-14)。高卒では 17 時の者が最も多く 32.2%、短大卒と大卒では 18 時が最も多く、それぞれ 32.1%、34.6%である。退社時間が 20 時以降の者が、高卒では 17.6%、短大卒では 19.8%、大学卒では 27.3%もいる。

図表 2-14 第 1 子出産 1 年前 学歴別 本人の退社時間
(分析対象：第 1 子出産 1 年前就業者、現在 1 歳以上の子どもがいる者)



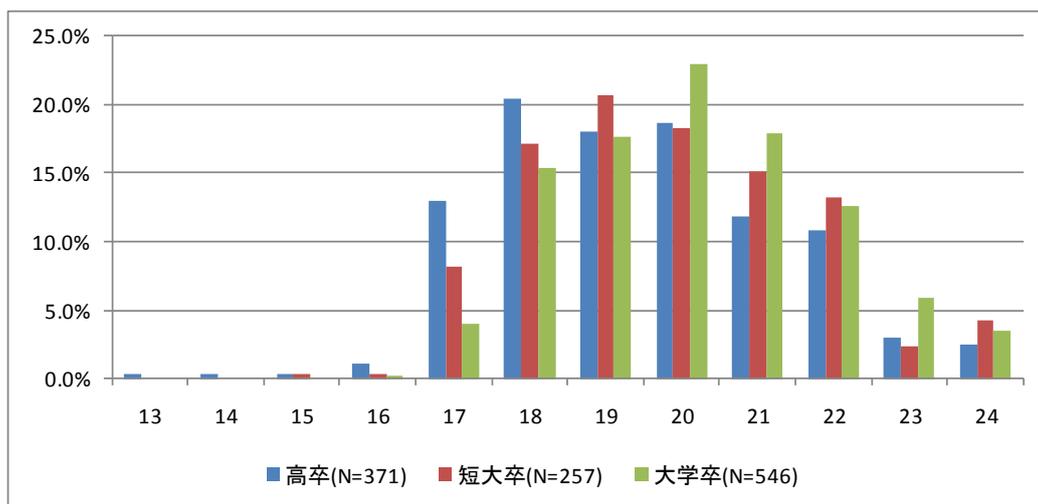
次に、第1子出産1年前の本人の退社時間について、第1子1歳時の就業の有無別にみたところ、第1子1歳時に就業している者のほうが退社時間がやや早いほうに分布している(図表2-15)。

図表 2-15 第1子出産1年前 第1子1歳時の就業の有無別本人の退社時間
(分析対象：第1子出産1年前就業者、現在1歳以上の子どもがいる者)



第1子出産1年前の配偶者の退社時間をみたところ、結婚を決めた頃と同様、学歴が高いほうが退社時間が遅い傾向にある(図表2-16)。高卒では18時の者が最も多く20.5%、短大卒では19時が最も多く20.6%、大卒では20時が最も多く22.9%である。退社時間が20時以降の者が、高卒では46.6%、短大卒では53.3%、大学卒では62.8%もいる。

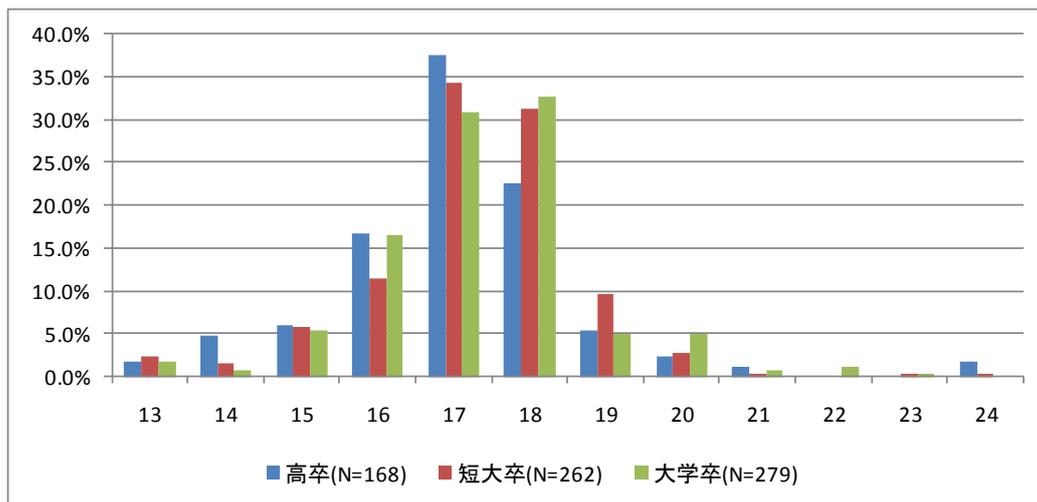
図表 2-16 第1子出産1年前 学歴別 配偶者の退社時間
(分析対象：第1子出産1年前就業者、現在1歳以上の子どもがいる者)



第1子1歳時の本人の退社時間をみたところ、学校卒業後、結婚を決めた頃、第1子出産1年前と同様に、学歴が高いほうが退社時間が遅い傾向にある(図表2-17)。高卒と短大では17時の者が最も多くそれぞれ37.5%、34.4%、大卒では18時が最も多く32.6%である。第1子1歳時

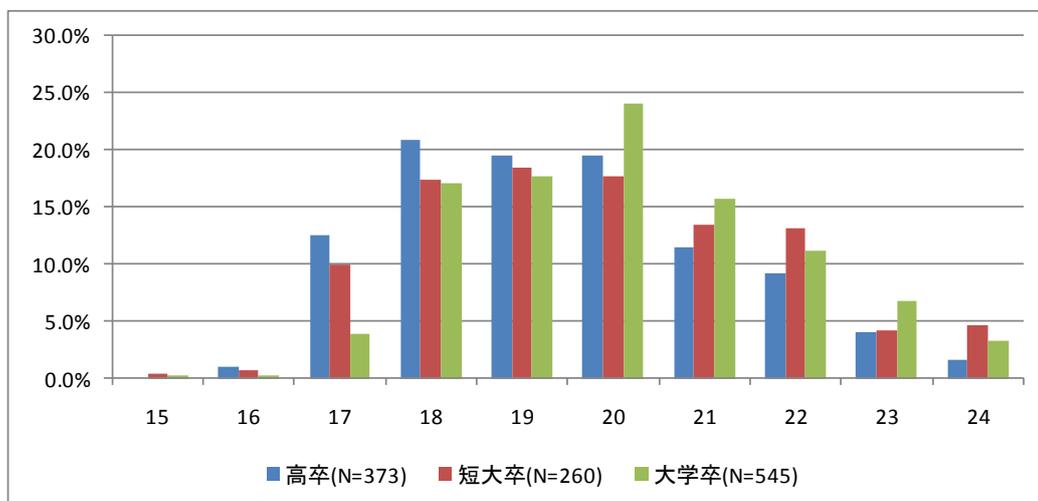
には、退社時間が20時以降の者は少なくなり、高卒では5.4%、短大卒では3.8%、大学卒では7.2%である。図2-15の「第1子1歳時就業者の第1子出産1年前の退社時間」(青い棒グラフ)と比較すると、退社時間が早くなっており、育児のために退社時間を調整していることがわかる。

図表2-17 第1子1歳時 学歴別 本人の退社時間
(分析対象：第1子1歳時就業者、現在1歳以上の子どもがいる者)



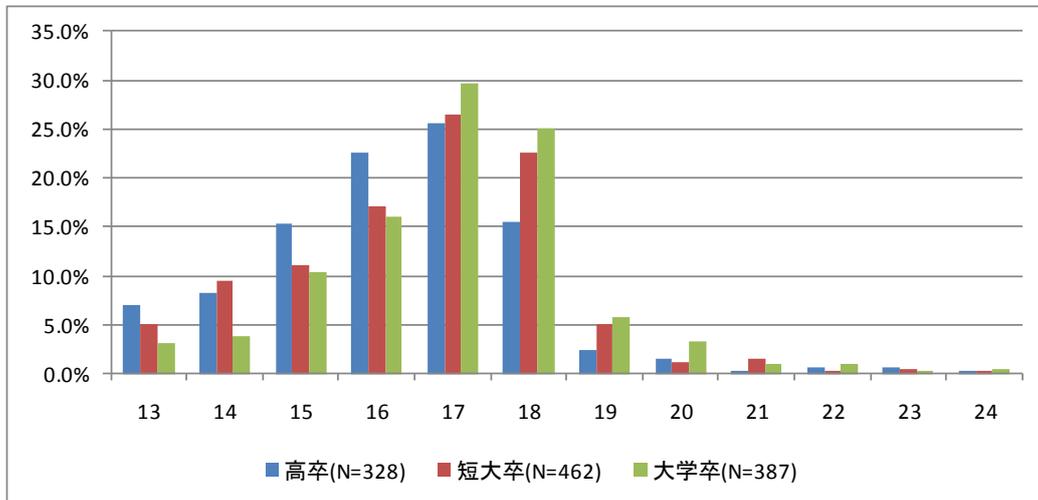
第1子1歳時の配偶者の退社時間をみたところ、結婚を決めた頃、第1子出産1年前と同様に、学歴が高いほうが退社時間が遅い傾向にある(図表2-18)。高卒では18時の者が最も多く20.9%、短大卒では19時の者が最も多く18.5%、大卒では20時が最も多く24.0%である。退社時間が20時以降の者が、高卒では45.8%、短大卒では53.1%、大学卒では61.1%もいる。子どもが1歳だと非常に子育てが大変であるにもかかわらず、配偶者の退社時間は遅く、女性が一人で奮闘している姿がうかがえる。

図表2-18 第1子1歳時 学歴別 配偶者の退社時間
(分析対象：第1子1歳時就業者、現在1歳以上の子どもがいる者)



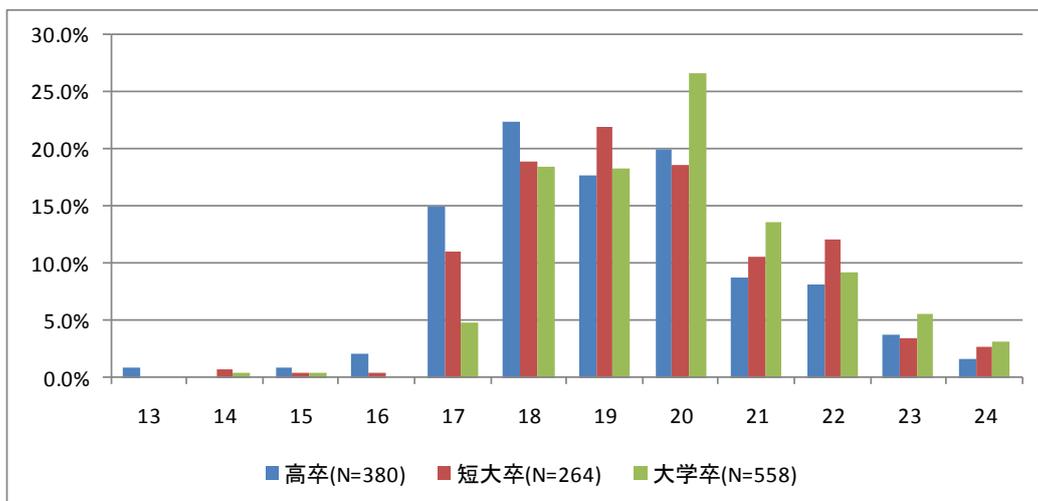
現在の本人の退社時間をみたところ、学校卒業後、結婚を決めた頃、第1子出産1年前、第1子1歳と同様に、学歴が高いほうが退社時間が遅い傾向にある(図表 2-19)。どの学歴でも、17時の者が最も多い。

図表 2-19 現在 学歴別 本人の退社時間
(分析対象：現在1歳以上の子がいる者)



現在の配偶者の退社時間をみたところ、結婚を決めた頃、第1子出産1年前、第1子1歳時と同様に、学歴が高いほうが退社時間が遅い傾向にある(図表 2-20)。高卒では18時の者が最も多く22.4%、短大卒では19時の者が最も多く22.0%、大卒では20時が最も多く26.7%である。退社時間が20時以降の者が、高卒では42.1%、短大卒では47.3%、大学卒では58.1%もいる。女性が育児のために退社時間を調整しているのに対し、配偶者はあまり調整していないことが明らかとなった。

図表 2-20 現在 学歴別 配偶者の退社時間
(分析対象：現在1歳以上の子がいる者)



4. まとめ

子どもが12歳までの有業女性について、初職から出産後までのライフステージ別の就業形態と退社時間を学歴別に集計した。分析対象者全員が現在有業であるが、第1子1歳時は、高卒で約5割、短大卒で約4割、大卒で約3割が無業である。無業女性は調査対象からはずしてあるため、全国調査に比べると、正社員での継続率はかなり高い。たとえば社会保障人口問題研究所2005年の『出生動向基本調査』では、第1子1歳時の正社員での継続は15%程度であるが、本調査では、高卒45.9%、短大卒53.7%、大卒78.7%である。

退社時間は、出産前までは、本人（妻）も遅い人が多く、出産後は退社時間を調整している人が多い。配偶者（夫）は子どもが生まれても遅い人が多く、本人（妻）が仕事をしながら、家事や子育てに奮闘している様子が見えてくる。

（山谷 真名）